

片岸地区まちづくり協議会 議事要旨

記

- 日時 平成 26 年 4 月 24 日（木）18 時 00 分～20 時 00 分
- 場所 市役所第 4 庁舎 3 階第 7 会議室
- 次第
 1. 釜石市副市長挨拶
 2. 鶴住居川水門及び片岸海岸防潮堤について（岩手県沿岸広域復興局）
 3. 土地区画整理事業の進捗状況について（釜石市都市整備推進室）
 4. 工事計画等について（UR 都市機構）
 5. 産業地区連絡道路整備について（釜石市都市整備推進室）

意見交換について

同じ片岸の中で3年ぐらい宅地引き渡しの時期にズレがあり、K1-1は平成27年だが、K1-3は平成29年度である。なぜK1-3だけ3年も時間がかかるのか？ 工事の進め方や国道移転など何か原因があるのか？皆同時期に津波で被災しており、2年半も場所で差が付くのは納得できないため、精査をお願いしたい。

- 22.7haの地区全体を平均1.1m造成盛土でかさ上げすると説明しました。その土は片岸の地区外から国道45号等を使って運んできますが、土砂運搬に日数等がかかります。次に、なぜK1-3の場所が遅れるのかについてですが、先程地区全体の工事展開を説明したように、国道工事に関係がないエリアから手を付け、災害公営住宅をいち早く供用できる工事展開を考えています。国道も鶴住居地区と一体的な工事が出ると三陸国道から伺っており、国道の工程も1～3期の工程があり、それに合わせた区画整理の工事展開を設定すると、1、2、3という順番になります。
- スケジュールに年単位で差があることは、URも大林組と工程をつくる時に悩んだところです。年の時間差は国道、搬入土量の順番であり、2年から2年半くらいの差があることは申し訳ありません。ただ、引き続き早くできる場所がないかなど、検討しますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

釜石北 IC から JR 山田線の踏切を超えて通る、新しい道路の高さはどのくらいか？

- 道路の本格的な調査・設計はこれからであり、高さは決まっておらず、進捗に合わせ、皆さんにお示ししたいと思ひます。

防潮堤の高さは 14.5m であり、その高さで整備してもらえれば、片岸地域は多重防御になると思う。無理でも JR 山田線以上の高さにしてほしい。せつかく道路を造るので、多重防御となる高さを考慮して設計してほしい。

→ 道路は県道吉里吉里釜石線に接続するため、その高さや道路接点の角度もあり、詳細設計の進捗で細かく変わってきます。片岸の基盤整備事業の基本として、標高 14.5m の防潮堤と水門ができて、今回と同じ東日本大震災クラスの津波が来ると溢れます。しかし、JR 山田線西側には水が来ないシミュレーション結果を基に、新しいまちづくりをしています。

前の堤防も簡単に破られており、シミュレーションには想定外もあるので、道路設計等はこれからも地域住民と話し合いながら進めてほしい。

副市長：一番気にされているのは JR 山田線の下をくぐるガードの話だと思います。道路は国道 45 号から県道吉里吉里釜石線に行くにあたり、JR をくぐるこの付近の水処理に懸念があると思いますが、ご説明してきたとおり、ガードの下をかさ上げすることで水路の底を上げ、水を入りにくくします。また、県のほうでは県道脇に土手を設けたいと考えており、防潮堤と道路の取り付けと土手の多重防御で守るので、ご安心いただきたいと思います。踏切を越えて県道吉里吉里釜石線に行く道路の高さは今後検討を進めますが、道路を切り回しすることで水の不安感がなくなるようにしたいと考えておりますのでよろしくお願いします。

事業期間が長すぎる。僅かこれだけの地域で、例えば国道線形を変えるのに何で 2 年半もかかるのか？ 搬入土が少ないのと言うが、増やす方法はないのか？ 被災家族のほとんどに 80 歳に近い、または超える高齢者がいる。造成に 3 年、その後に家を建てるのに何年かかるのか？ 町内会で改めてアンケートを取っているが、「もう待てない」人がどんどん出ている。このままでは片岸に戻る人がまた減るので、大林組と協議し、県や国にお願いをし、事業期間を短縮してほしい。待てないので、決意を語ってほしい。

また、国や県との協議結果でどれだけ詰められたかは、まちづくり協議会や連絡会で報告してほしい。

→ 今は確実な方法でできる工程をお示ししていますが、土地の手配、国や県と調整を行いつつ縮める努力はします。この場で工程の短縮期間は言えませんが、ご理解いただきたく思います。

また、国道協議で工程を詰める話をしています。それを受けて説明していきます。

防潮堤も計画より2年延びたが、区画整理でまた遅れることを心配している。「堤防は平成27年度に完成するので安心して家を建てて」と言っていたのに、延びると簡単に言われた。住民にとっては裏切りであり、自覚し、よく考えてほしい。

片岸の宅地造成に関して、必要な土砂は心配いらないと住民だけでなく行政サイドも考えていたと理解している。片岸の裏山でトンネル掘削工事をしているはずで、その発生土砂は造成に良い土だが、鶴住居で仮置きしている土砂と今後発生するトンネルの土砂は、最優先で片岸の造成で使うことを、誠意を持って検討してほしい。

あと2年かかるとなった場合、片岸を離れる人が出ることも心配だが、高齢者は集合住宅に入ろうか、戸建に変えようかななどの動きが出てくると思う。

工事工程の説明で、「戸建住宅と集合住宅を第1期で整備する」ことは、片岸の住民での希望者が増えると思うため妥当であるが、より早くやることを真剣に考えてほしい。同じ町内でも室浜地区では、片岸の公営住宅に最優先で入りたい希望者が出ている。一方で鶴住居等でも、集合住宅は片岸の公営住宅建設予定地が便利で将来的にも望ましいため、入りたい希望者が出ている。公営住宅の建設予定地を示し、希望再調査を実施してほしい。公営住宅は建設する毎に入居希望者を募っても、選定されなかった時は大きな苦痛となるので、全体像を示し、「どこを希望するか？」という調査が行われるのが望ましい。

- 土砂は、指摘の通り片岸のトンネルから良い土が出ています。今後は7万 m^3 ほど入る計画です。現在、鶴住居に約10万 m^3 入っています。片岸にも入る予定で、夏から本格的に行う残存基礎撤去工が終わってから、土砂を搬入する計画です。近場から発生する土は、できるだけスムーズに入れるよう努力したいと思います。
- 公営住宅に関する意向変化はかなりあると考えており、「市の計画では各地区で住宅はここに建ちます」とお示しして、図面を見ていただき、申込を実施しようと思っています。段階的に考えており、まず5月に唐丹方面、その後東部地区、それから鶴住居方面の申し込みを受けようと考えています。片岸地区の集合住宅は、平成27年度中の完成を考えており、県と協議し、できるだけ早くできるようにお願いをしていきます。

当初片岸に集合住宅を作ることの要望で、一番多く出ていたのが間取りである。県の間取りは被災地全体標準で3LDKが出てこないため、釜石で作ろうとの話だったが、釜石市による建設予定はないのか？ また希望者が多くなった場合、民間が公営集合住宅を作り、市が買い取ることを釜石で考えられないか？

→ 大槌町との境に位置する片岸の集合住宅は、市営住宅ではなく、大槌町からの入居も可能な県営住宅となった経緯があります。民間が作る建物・敷地提案型での公営住宅づくりの可能性は、希望者数にもよります。昨年実施した意向調査では、公営住宅希望者に関して、特に集合住宅では大いに減ったので戸数を減らしていますが、今年度実施の申込で応募が多ければ、対策を考えます。

間取りはどのようになるのか？

→ 県のものは3タイプあり、1DK、2DK、3DK。市のものは1LDK、2LDKの2タイプで、同じ大きさの間取りタイプになります。県は当初単身世帯の全てが1DKでしたが、2DKを認めている話もあります。

我が家は7人であり、以前のように戻るには部屋数が少ない。相談をしたら、役所の人は2戸借りすればとの回答だった。場所が離れたら同居の意味がないため、「戸建なら2軒くっつけば安いし、入居者が居なかったら困ると言うなら希望者と事前契約すればよいと思うが、どうしてそのような整備ができないか」と聞いたが返事はなかった。これまで協議会に出てきたが、戸建の話が出たのは今日が初めてで、地権者以外の公営住宅入居希望者は知らないと思う。広報で知らせてきたのか？

「2DK、3DKはグループ申し込みの枠がある」「希望者全体のスペースは確保した」と言うが、溢れかえる入居希望者が来たらどうなるのか？

年に1回のアンケートでは、意向が動いているのではないのか？

→ 2戸貸しの入居の部屋割りは、隣同士は可能であると思うので、基本は地元協議でまず決めていただきたく、それで決まらなければ市で抽選することを考えています。

地区の仮換地計画が終わり、各公営住宅用地が決まったのですが、場所は今回初めて皆さんにお話ししました。

入居希望者に対しての用地は、1LDK、2LDKを混ぜて建てられる40戸分を確保しています。ご提案通り長屋にすれば安くなるので、ここの住宅建設は大槌町大ケ口地区で長屋（平屋）整備をしているURにお願いをしており、希望を聞きながらの柔軟な対応が可能だと思います。

意向調査では意向が決まらない方もおられるので、今回はアンケートではなく申込を行い、確定したいと思います。

K1-1 は平成 27 年末に引き渡しとなるが、公営住宅の完成はいつか？

→ K1-1 は国道工事の影響なく工事が進められ、平成 27 年 9 月頃に宅地引き渡しを受けられます。公営住宅も 10 月頃から建設が始まり、平成 28 年 3 月には完成というスケジュールを組んでいます。

部屋数等はどうか。家族が一緒に住めれば良いが、それが叶わない場合でも隣に家を借りることができるようにしてほしい。

→ 片岸で被災され、片岸の公営住宅に住んでおられる方は最優先で入ることができる、その分の数を必ず作るという方針で進めています。

片岸地区・鶴住居地区の下水本管工事が工程表に入っていないが、配管工事と分離して本管工事を優先するなど、早く整備を進める手だてはないのか？

土地の引き渡し前に各個人が行う住宅建設の許可申請を受け付ける運用を考えてほしい。

→ 下水道処理場は長内川と鶴住居川沿いの JR 鶴住居駅裏側に計画され、今後本格的に工事が進められます。一方で下水道本管工事も区画整理事業と一体施工を行うなど、工期短縮を図ります。下水道本管が鶴住居川を渡りますが、国道工事事務所と詳細工程を調整し、早くできるよう考えております。住宅建設の許可も取り扱うなど、あらゆる可能性を排除せずにやっていきます。

被災者は急いでおり、仮換地でのかさ上げ高もわかるので、支障が無ければ基礎工事だけでも進めたいのだが可能か？ 被災者は工事をしていけば安心するので、それができるよう行政も頑張してほしい。

→ 早く高さを示してほしいという話がありましたが、地区内の盛土高さの表示に関して、5 月に「計画盛土高の目安」を要所の電柱に貼り付けます。また、電柱がないところも、何らかの形で表示したいと思っています。

防潮堤の高さも示すよう県にお願いしたい。

→ 工事を早くすることが本筋であり、それは引き続き検討していきます。先程の「盛土高を示す」ほか、今 UR が釜石市と調整しているのは、将来のまちの絵姿を早くお示ししたいことです。山田町のようにコンピュータグラフィックスで盛土や建物が見えるようにしたいです。

工事は順番に進みますが、できたところに来ていただき、工事現場説明会をするなどの情報提供もしていきたいと思います。

(大林 JV の挨拶)

土地の引き渡しだが、道路に高低差がある土地の場合、擁壁などをまわしてもらえるのか？

→ 道路と宅地の高低差（宅地整備）確定させるのはこれからです。一定の高さ以上になれば擁壁が必要となります。方針ができ次第、皆さんと調整を図りたいと思います。

片岸では湧き水が多く、雨水がかなり発生するため、境界線全部に排水溝設置となった。そこで設計段階での要望は、排水溝の深さが問題であり、慎重な配慮をお願いしたいのだが、その検討結果を我々にも教えてほしい。

鉄道の外側も都市公園が設けられ、その脇に片岸の地域特性を考慮して遊水池が設けられるが、確認したいのは片岸には津波以前は大きな沼の遊水池があった。今回作る遊水池で以前の沼の面積が確保されないなら、深さで貯水力のバランスをとってほしく、基本設計段階で考えてほしい。都市公園機能には多様なニーズが出ると思う。ワークショップ方式でも良いので住民の声をしっかり聞き、基本設計に生かしてほしい。

→ 地区界の排水処理ですが、水の状況、山裾の土質、盛土の材料をよく見て、側溝の下に暗渠排水を併用させるなども検討します。

片岸地区は勾配が緩やかで水の流れが悪かったので、雨水排水が円滑になるようかさ上げを行います。みのすけ沼は地盤沈下でなくなりましたが、被災前の水の流れを踏まえ、一極集中しないよう排水経路を検討しています。新しい公園の位置づけを踏まえ、地区の排水はどのようなものがよいか、地域を一番ご存じの皆さんの意見を聞きながら、計画を進めます。

副市長：遅くまで熱心な議論はありがたく、意見・要望はしっかり受け止めます。何点かお答えします。

土地造成の基盤整備工事をもっと急げないかについては、国土交通省の道路工事との関連が大きいです。工程を工夫し、早める努力をします。また、調査結果や短縮できる日程を説明したいと思います。

公営住宅は、5月の唐丹地区をはじめ、一番問題の東部地区も8月頃に皆さんからの入居募集をします。東部地区も全員入れますが、他地区からの入居希望者とどのように棲み分けをするか、また希望建物に集中して他で空室が目立つことがないように、どのように決めるかをこれから検討します。

鶴住居も10月に「どこに何戸どういう建物を作る」など全体が見える情報提供をし、皆さんが「自分はどこに入るかが決まった」と安心してもらえるようにしたいです。しかし、間取りや家族が隣り合わせで一緒になど、個別の話もあるので、要望を聞き、決まったらその設計を行うなど詰めていきたい。時間がかかるので他に行く人が出ないように、もう一回住んでいた場所に戻れるようにしたいと思います。

意見に対する回答がないことへのお叱りには反省し、このような場を大切にし、意見を聞きながらやっていきたい。そして皆さんの思いに寄り添って頑張る気持ちを新にしましたので、今後ともよろしくお願いします。ありがとうございました。